

宮古島市人口ビジョン

宮古島市まち・ひと・しごと創生 総合戦略

概要版

働く場所
としての価値を
高める**しごと**を
創出する

健康で
安全・安心に暮らせる
持続可能な島をつくる

まち

多彩な交流により
ひとを呼び込む

- ・ 暮らし続けたい、暮らししてみたいと思う選ばれる島づくり
- ・ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望が実現でき、健康で安全・安心に暮らせる持続可能な島づくり

\\ 今後45年後も5万人以上が暮らす島を目指す //



位置づけ

宮古島市人口ビジョン

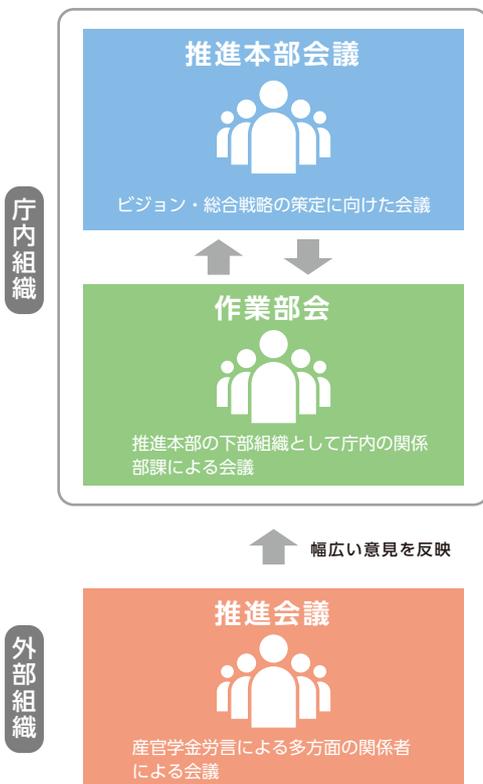
「宮古島市人口ビジョン」は、国が提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「沖縄県人口増加計画（改訂版）」を勘案して、宮古島市における人口の現状を分析し、人口に関する市民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものです。

宮古島市まち・ひと・しごと創生総合戦略

「宮古島市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、総合戦略という）」は、まち・ひと・しごと創生の趣旨を踏まえ、「宮古島市人口ビジョン」で示した将来展望を実現するために、平成27年度～31年度（概ね5年間）で取り組むべき施策等を取りまとめたものです。

策定にあたって

1) 組織体制



2) 将来展望にむけた調査

市民・転出者・学生・高齢者に対する意向調査

人口減少に対する認識

- ・平成52(2040)年までに約1万人減と推計されていることを半数以上が「知らなかった」と回答
- ・人口減に対する今後の取り組みとして、市民は「増加・維持・抑制・受入」と重要視する意見が同程度である一方、学生は「維持・抑制」の意見が多い

結婚・出産・子育て

- ・未婚者の半数以上に結婚への願望があるが、「経済的な余裕」、「出会い」が課題
- ・理想の子ども数より少ない理由は、「子育てや教育への経済的負担」の回答が多い
- ・結婚・出産・子育てに重視すべきことは「子育てと仕事を両立できる職場環境」、「若い世代の経済的安定化」の回答が多い

定住・移住

- ・「住みやすい」「ずっと宮古島市に住みたい」の回答が多いものの、住みたくない理由として「買い物など生活に不便」「所得や賃金などの地域格差」の回答が多い

島の将来

- ・「産業を振興し、雇用を拡大させて、経済を活性化する取り組み」への方向性が最も多く、具体的な取り組みは「生産性向上や後継者の育成、加工、販売の充実による農林漁業の振興」「若者をはじめとする非正規雇用問題解決への取り組み」が多い

その他

- ・宮古島市の自慢・PRは全ての調査で「豊かな自然・きれいな海」が突出して多い

宮古島市
人口ビジョン

目指すべき将来の方向性

「社会減」「自然減」における対策の基本的方向

1) 社会減対策

暮らし続けたい・暮らししてみたいと思う選ばれる島づくりを目指す

- ・リーディング産業の更なる振興
- ・島が有する地域資源を活かした多彩な交流

2) 自然減対策

若い世代の結婚・出産・子育ての希望がかなうとともに、安心して暮らせる島づくりを目指す

- ・若い世代が希望を持ち、結婚・出産・子育ての希望が実現できるよう支える
- ・健康・長寿で安心して暮らせる豊かな島づくり



若年女性の希望出生率をかなえ、
平成 72(2060) 年までに 2.73(※)
まで向上させる

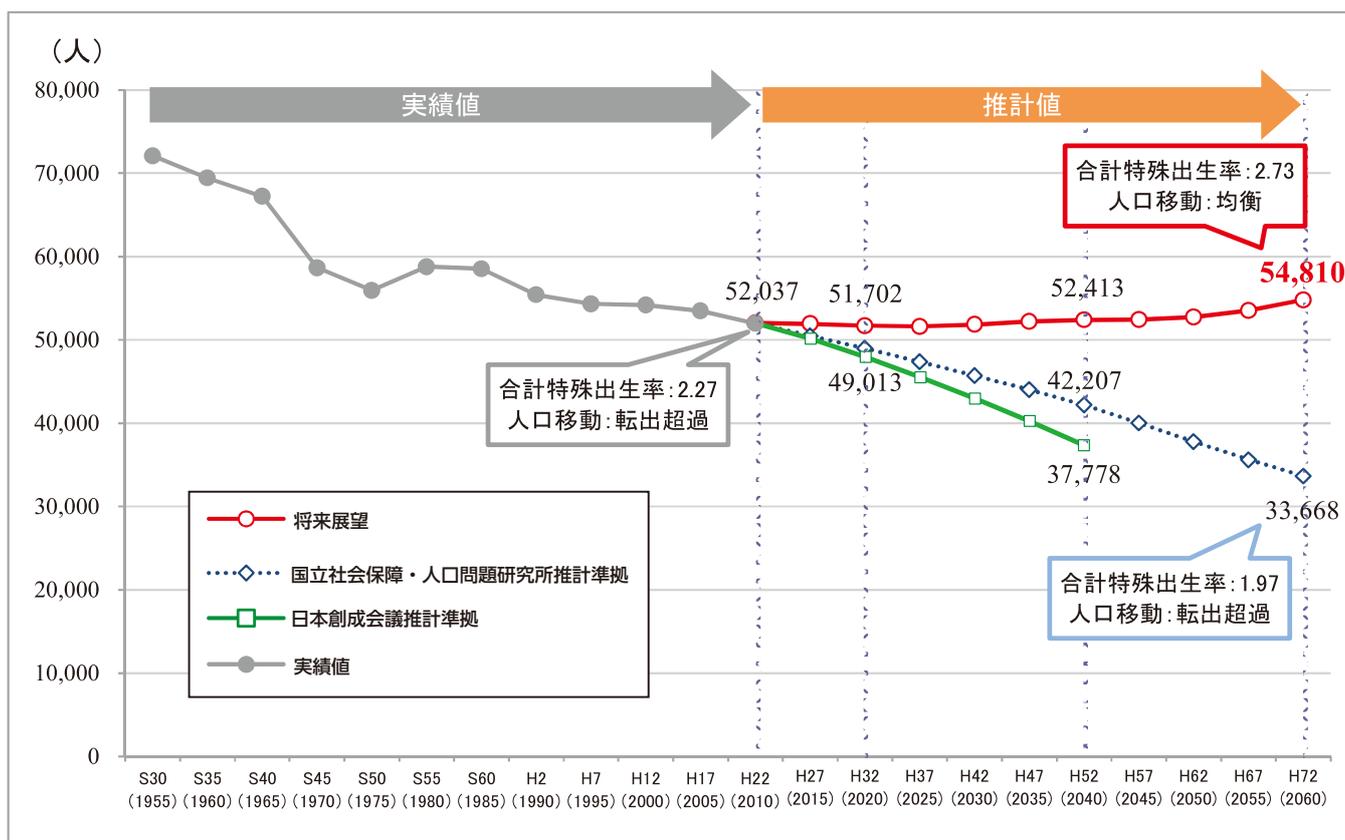
※市民アンケート調査結果より設定



産業の振興・雇用創出による
UJI ターンを促進し、平成 27(2015)年
以降の人口移動を均衡状態にする



平成 72(2060) 年において **概ね 54,000 人** を目指す
【平成 32(2020) 年で 51,000 人、平成 52(2040) 年で 52,000 人】



宮古島市では、経年的に少子高齢化の進展、転出超過による人口減少傾向が続く中で、今後もさらなる減少傾向が推計されています。そのような中で、人口の減少及び構成変化に係わる影響を最小限に食い止め、地域の活力と成長力を確保・高めるべく、「宮古島市人口ビジョン」の将来展望では、当面は現状維持を図りつつ、平成 72 (2060) 年には概ね 54,000 人を目指すことと位置づけています。そのため、宮古島市における様々な地域資源を活用しながら、活力のある地域経済に支えられた安心・安全な暮らしができ、結婚・出産・子育てがしやすく、「先」を見つける島づくりに取り組むことで、将来展望の実現を目指します。

若者をはじめとした「ひと」の流入・定着などにより社会動態を均衡にし、
「先」を見つける島づくりを目指す

基本
目標1

「働く場所」としての価値を
高めるしごとを創出する



- (1) 観光・リゾート産業の振興による雇用の創出
- (2) “みゃ〜くむぬ” プロダクツで稼ぐ農林水産業の成長
- (3) 地域企業等との連携による多様な人材の受入・育成
- (4) 環境・エネルギーや情報通信関連産業、観光・リゾート産業等の誘致と育成による産業創出

◆ 就業者数（公務を除く）
22,622人（H22）→23,300人

基本
目標2

多彩な交流により
ひとを呼び込む



- (1) スポーツアイランド・エコアイランドなど地域イメージを活用した交流人口の拡大や「暮らしの場所」の魅力発信
- (2) グリーンツーリズムやブルーツーリズム等による着地型観光の推進
- (3) 若者の定住促進とUJI ターンの環境整備

◆ 入域観光客数 430,550人（H26）→660,000人
◆ 転出超過の縮小 △71人 / 年平均（H21-25）→0人

基本
目標3

若い世代の就業、出会い・妊娠・
出産・子育ての希望をかなえる



- (1) 若い世代の子育て等における経済的支援の充実
- (2) 若い世代の交流や出会いの機会の提供、妊娠・出産から子育てまでのライフステージに即した切れ目のない支援
- (3) 子どもたちの生きる力を育み、豊かな人材の育成
- (4) 女性の社会参画の積極的な推進

◆ 若年者（25-34歳）の就業率（公務を除く）65.9%（H22）→69.7%
◆ 合計特殊出生率 2.27（H20-H24）→2.35
◆ 「子育てしやすい」と感じる市民 3.33（H27）→3.60
[市民アンケートによる5段階評価]

基本
目標4

健康で安全・安心に暮らせる
持続可能な島をつくる



- (1) 市民の健康づくりへの意識醸成と健康管理の支援
- (2) 世代間交流の促進と住民相互扶助制度の構築による安心して過ごせる環境の創出
- (3) 環境や資源循環に配慮した持続可能な島しょ型低炭素社会システムの構築
- (4) 安全・安心に暮らせる地域の実現

◆ 平均寿命
男性 78.0歳（県内最下位）、女性 86.2歳（県内37位）（H22）
→男女とも県内20位（県内41市町村の中位）
◆ メタボ該当率 26.0%（H25）→16.0%

検 証 ・ 推 進 体 制

1) PDCA サイクルの構築

基本目標の数値目標や施策ごとの重要業績評価指標（KPI）をモニタリングし、効果検証、改善・見直しを行う仕組みを構築します。

2) 推進体制

総合戦略の推進にあたっては、市民をはじめ、地域、企業、団体等がそれぞれ持つ力を引き出し合い、相互に連携・協働しながらの取り組みが重要です。



発行元

宮古島市企画政策部企画調整課

〒906-8501 沖縄県宮古島市平良字西里186
TEL.0980-72-4878(直) FAX.0980-72-3795